

パインほっとインタビュー

アフガニスタンの子どもたちとの交流を願って

江原伯陽さん



三田市フローラタウンで小児科を開院されている江原先生。台湾の地震やアフガニスタンへの空爆後、現地にボランティアとして参加されたという記事が新聞にも載り、読まれた方もいらっしゃると思います。今回は、そのときに感じられたことや、現在の思いについてお尋ねしました。

◆ 台湾へは地震後すぐ行かれたのですか。

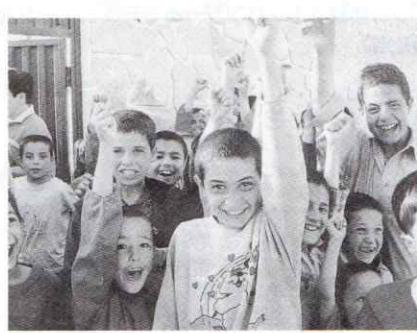
'93年にY.M.C.Aをサポートする「三田ワイズメンズクラブ」が設立され、その会長をしていました'95年に阪神淡路大震災が起こりました。毎週末炊き出しに出かけましたが、医療活動ができなかったので、台湾地震のときにその方面で協力したいと思い、インターネットで調べ、地震の4日後現地入りました。死者600名と被害が大きかった台湾中部の東勢（人口約5万人）という所で救急診療をしました。9月でとても暑く大変でしたが、日本から来てくれたと喜んでもらいました。震災の時神戸と大阪の被害の程度がずいぶん違ったように、台湾でも、台北はほとんど無害で台中は被害が大きかったです。しかし、海外から救援が来てくれたのだから、台湾内部でももっと支援しなければという空気が広がっていました。震災経験国から来ている私たちに、国会で発言して欲しいという要請がありました。時期が夏だったので、最も注意する必要があるのは衛生面。被災者は自分のことで精一杯の状態で、とてもコミュニティのことまで意識が届かないで、こちらから「毎朝トイレ掃除をしています」と言うと、すぐに仮設トイレが100個設置されました。免疫力の低下も心配されたので、65歳以上の方には、インフルエンザの無料予防接種も行われました。子どもの夜泣き等P.T.S.D（心的外傷後ストレス障害）の処理は難しいのですが、日本の災害に学んだ台湾政府の対応は早かったです。

◆ P.T.S.Dについてのリーフレットを出しておられますね。

'01年9月11日のニューヨークでのテロですが、54時間以内に救助しなければ、生存は難しいです。日系企業のご遺族のことが心配だったので、対策本部に「子どものP.T.S.D」のリーフレットを送りました。アメリカでは日常のカウンセリングは普及していますが、このよう日本語の冊子ではなく、英訳配布されたとも聞きました。

◆ そして、アフガニスタンへの空爆がありました。

小児学会のメンバーが坂口厚生労働大臣の同級生だったことから、'02年2月に、大臣から「アフガニスタンへの心理的ケアの必要性」について相談があり、東京でいろいろとお話をしました。現地に行く前にアフガニスタンについて知っておきたいと思い、新聞社の人紹介してもらったのが、静岡県に住むアフガニスタン人医師のシャード・カレッド先生です。彼は日本で勉強中にソ連の侵攻があって、帰国できずにいたのです。3月に京都で会い、「カレーズの会」という教育と医療を最優先にしたNGOを立ち上げました。カレーズというのは地下水源の意で、「深く潜伏して見えないが、いつまでも脈々と続く」という思いを込めたものです。



▲笑顔で集まっているアフガニスタンの子どもたち

◆ '02年4月にはアフガニスタンに入られたのですね。

最初は、カブールに入りました。ここは標高1,800mの高地で涼しく過ごしやすい所です。でも、ごみ捨て場はあってごみ収集車が来ないので、ハエ・悪臭がひどい。下水道がないので、トイレから汚物が直接溝に流れてしまい、その5~6m先には井戸があって生活用水に

利用しているという劣悪な衛生状態です。夏季は下痢・赤痢、冬季は肺炎が多く、また、寄生虫によるできものが身体中にあつたり、結膜炎などの患者もよく見ます。唯一の国立小児病院には、300床に600人が入院していますが、医療器具・薬品が無いので手術はできず、ただベッドに寝ているだけの状態です。しかしカブールには何千ものNGOが入っているので、私たち「カレーズの会」は猛暑(48度)のカンダハルの難民キャンプへ行き、シャード医師の家を診療所に改造しました。週3日はここで診療し、後2日は難民キャンプを巡回診療しています。

また、教科書がない医学生や医師のために、英文医学書が日本全国から約2,000冊寄せられており、現地への輸送を予定しています。

一方教育面では、30年近くの内戦で多くの人々は傷つき、子どもたちはその世話や貧困のために、学校に行く機会を奪われています。トイレがないため、学校に行けない女の子たちも大勢います。

そんな現状を日本の子どもたちにも知ってほしいと思います。そうすれば、自分たちはどれだけ恵まれた生活を過ごしているのかが分かってくるはずです。現地では親日感情が強く、日本だからお手伝いできることもあると強く感じました。信頼できる国からの援助でなければ、なかなか浸透していません。総合的な学習の時間などでアフガニスタンの現状を知ってもらい、小中学生同士の交流なども含めて支援の輪が生まれたらいいなと思っています。

写真で見たアフガニスタンの子どもたちの表情が思いのほか明るいのは「ようやく平和への望みを見出しましたから」と言わされました。また、「三田市国際交流協会も姉妹都市とだけではなく、このような国との交流もしてみては」と提案してくださいました。

そして当協会では、会員などから集めた子ども用の靴を年末アフガニスタンに行かれる先生に託しました。協力してくださった皆さんありがとうございました。現在、「カレーズの会」関西支部ではアフガニスタンの医療と教育の復興支援のために、人材、バザーなどによる募金や寄付を募っています。詳しくは、江原伯陽さんまで。

(連絡先)

〒669-1546 三田市弥生が丘1-11
フローラタウン駅ビル7階
エバラこどもクリニック
TEL 079-562-8580 FAX 079-562-8581
hakuyo@pluto.dti.ne.jp
www.netkobe.gr.jp/karez/

'02年9月20日取材 (YOKO)

国際理解講演会 「アフガンからの最新情報」

- 日 時… 1月25日(土) 14時~15時30分
- 場 所… フローラタウン市民センター視聴覚室
- 講 師… 江原伯陽さん
- 内 容… アフガニスタン復興支援活動で活躍されている同氏による現地の最新情報
- 定 員… 40名(先着)
- 参 加 費… 無料
- 申込み… 三田市国際交流協会事務局
TEL 079-559-5023
FAX 079-563-1366

Let's Talk Together!

外国の方、海外生活経験者を招いて
毎月ミニ講演会を開催



▲ニュージーランドの歴史について語る
デニス・プールさん

7月の会

「今、日本語教師に楽しみを見出す」

(5月の会に引き続いだ)
安部二郎さん
昭和21年に生まれ育った中国から日本に帰国。大型船舶の国家資格取得後、30年間船舶無線通信士として中国を含む約75ヶ国を訪れる。

退職後の現在、日本語教師として活躍中。教えることで自分自身も学んだと、穏やかな笑顔で話してくださいました。

8月の会

「済州道への派遣生*と済州道からの生徒**による報告・交流会」

*食文化の違いに驚く。いろんな種類のキムチがあり、どれも美味しい。真剣に学ぶ韓国の学生を見て、勉強=生きることだと思った。
**日本人は親切。ゆかたを着て見た花火が忘れられない。将来日本の大学へ行きたい。ヘルメットをかぶって原付に乗っているのに感心。日韓の距離が近くなったと感じた。

9月の会

「今日の上海事情」

李雪萍さん

'93年の来日以後、上海には次々と高層ビルが建ち、高速道路、地下鉄も完成。急ピッチで近代化が進む中、地方からの転入者は年々増加。サラリーマンの月給4千~2、3万円、缶ビール48円。若者の携帯電話好きと「茶髪」にへそ出し」は上海でも変わらない。

10月の会

「ニュージーランドの歴史と人々」

デニス・プールさん

約1千年前にカヌーで渡ってきた先住民族のマオリ族は、芋や野菜を作り体長3mの野鳥を食べる生活だった。ジェームス・クックが来た1769年頃から西欧人と物々交換が始まり、19世紀半ば、マオリ族はイギリス国民となる。今もマオリ族は独自の文化・伝統を残そうと努めている。
*1947年にニュージーランドはイギリスから独立

11月の会

「フライトアテンダントのこぼれ話」

勝又芳枝さん

イギリスの航空会社は日本の航空会社と比べて、保安により重点を置いています。また、フライトアテンダントは個人の責任においてサービスを提供するという考え方一般的。イギリス人は社交を好み、バブでは女性から子どもまで楽しい交流をしている。

12月の会

「バイリンガルとして育つて」

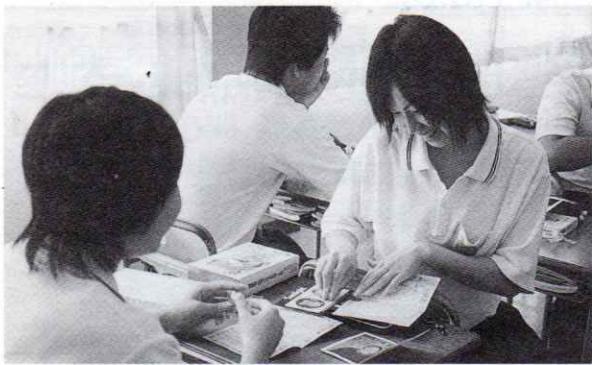
ヒラリー・ニコール・ペグラーさん

アメリカで生まれ、2才の時来日。昨年、1月から7月までオペア(Au Pair)のプログラムを利用して、スイスでベビーシッターをしながら、ドイツ語の勉強をした。

このプログラムは滞在家庭の家庭や子どもの世話をしながらその国の文化や言葉を学ぶというもので、あまりお金をかけずに語学留学をしたいと思っている人には最適。

手紙で楽しく国際交流 豪州の子どもたちと学校生活を紹介しあう

上野台中学校では、2年前から豪州ブルーマウンテンズ市の子どもたちと文通交流を行っています。今年は3年生の生徒たちが、学校生活や自分の趣味などについて一生懸命英語で手紙を書いています。



▲オーストラリアからの手紙を開ける生徒

「英語で文通をして」

上野台中学校 3年 仲田佳奈

私は、初めて英語で手紙を書きました。英語はあまり得意ではないので、ちゃんと書けるか心配でした。ペンパル用の本などを参考にしながら書いていると、たくさんの英語が書いて楽しかったです。返事はいつ来るのかとても楽しみでした。

2学期になり、返事が来ました。ドキドキしながら封筒を開けると、中には手紙と一緒にオーストラリアのコインと写真が入っていました。私の友達は、パトリックという11歳の男の子で、学校・家族・スポーツのことなど、いろいろなことについて書いてくれました。それを自分で訳し理解できた時は、とても嬉しかったです。

ウェントワースフォールズ小学校 Liam リム (10歳)

"I think writing to a penpal in Japan is really cool. I have learnt what it is like to live in Japan, and to go to a Japanese school. It is fascinating! I really enjoy writing to my penpal about where I live and our environment and I hope we can become really good mates through our letter writing."

(意訳)

日本のペンパルに手紙を書くのは最高です！日本の生活や学校の様子が分かって本当に嬉しいです。私の街や周りの環境のことについてペンパルに手紙を書くのは本当に楽しいです。この文通を通して友だちになればいいなあと思っています。

マラソンで得た宝物！

国際交流なんて、英語の苦手な私にとっては無縁のものだと思っていました。そんな私が海外のレースに、しかもホームステイだなんて考えもしませんでした。

ホームステイ中、家族との会話はもっぱら辞書をひきながらでしたが、何とか通じるものでした。ブッシュウォークやアウトドアでのランチ、そしてシドニー観光など楽しく充実した日々を過ごしました。

でも一番忘れられないのはレースです。インディジョーンズにでも出てきそうなスリルある25kmのコースでおもしろかったけど、練習不足で後半バテてしまいました。そんな私に、ホストファミリーのジョンさんが "Go! Miyuki!"と一緒に走ってくださいました。おかげで完走でき、しかも部門別で3位に入賞しました。前川さんは、総合2位、部門別優勝と快走されました。

山田 美由紀 (西山在住)



あっという間の1週間で、お別れの日にお世話になつたお礼を一生懸命伝えていると、奥様が涙され、私も感動しまって泣いてしまいました。

こんな異国之地で心が通じ、涙を流すなんて、出発前には考えられないことでした。本当にとてもいい経験をさせていただきました。この思い出は私の一生の宝物です。

山田美由紀さんは、三田国際マスター・マラソンで上位入賞し、ブルーマウンテンズ市のウッドフォード・グレンブルックランに前川貴史さんと共に招待されました。

2003 iEARN 国際会議 in Japan

アイアーン国際会議が7月に三田で開催され、海外から500人、国内から1,000人の教育者と子どもたちが集まります。ニューヨーク州とモスクワの高校がテレビ会議で交流したのをきっかけに始まった教育ネットワークで、インターネットを活用して世界各国の教師が次世代を担う子どもたちのために国境を越えた国際理解教育を実践しています。



▲自分の未来像を見せる各国の子どもたち

例えば、小学生は「自分の未来」というテーマで絵を描き、世界中の子どもたちと交換したり、中学・高校生は「自分の生活の中で一番大切なこと」というテーマで作文を書き1冊の本にするというプロジェクトもあります。

また、年に一度は世界のどこかの国に集まって会議を持ち、成果を発表します。昨年のモスクワ大会では、三田市立藍小学校の子どもたちが、広島の平和記念館に遠足に行ったときの感想などをテレビ会議で報告。大変関心が高く、参加者たちは、とても感銘を受けたそうです。現地では、市内を案内してもらったり、夜は歌やダンスと、とてもフレンドリーだったようです。まさに言葉を越えた交流ですね。今回の会議が、日本の子どもたちを世界へつなぐステップになってくれることを願っています。

会議は、7月20日～27日、関西学院大学神戸キャンパス他で開催。同時に、国内外の中学生・高校生200人が、一週間合宿生活を通して交流学習をするユースサミットも行われます。

国際交流の絶好の機会です。是非参加を……学校、クラス、グループ、または、個人でも結構です。只今参加者募集中。

(MIMI)

●アイアーン国際会議についてのお問い合わせは●

iEARN事務所 Tel 079-560-6001
ホームページ <http://2003japan.jp/>

※ iEARNは International Education and Resource Network の略です。

キティタス郡で三田市の子どもたちの絵画を展示

02年8月29日～9月2日にキティタス郡で開催されたカウンティフェア（郡祭り）の会場で、八景中学校、上野台中学校、狭間小学校の生徒たちの絵画29点が展示されました。

アメリカの子どもたちが描く絵と共通する点もあれば、全く異なることもあります。三田市の子どもたちの学校生活の一端が伺えると住民の皆さんにとっても好評でした。



開成に行けば、ば・ばあ～んと合格!!

2002年度
合格実績

2003年、
今年もやっぱり
受験は開成だね!!

北摂三田 95名
三田祥雲館 63名
三田西陵 52名 他、多数

新年度入塾テスト

全教室一斉

**1/18(土)
PM3:00～**

2003年度入塾生受付中
新世代感覚!!開成のアクティブなホームページ
<http://www.hotline.gr.jp>



もっと伸びる、信頼の指導

開成教育セミナー

☎(079)564-5555

受付は AM10:00～PM10:00まで

●三田●北神●篠山●柏原

